アズラの祈り

アズラの祈り

シギラウ・パレート 著



300年もの間、私はアズラこと月影のデイドラの王女、薔薇の母そして夜空の女王の女性司祭をしてきた。どのホギトゥムも我々は蒔種の月21日を祝い、価値ある美しいものをあの方に捧げるのと同様に助言を求めて彼女を呼び出す。彼女は残酷だが、賢い支配者である。どのホギトゥムであれ、雷雨の時は彼女に祈らない。たとえ日取りが重なったとしても、こうした夜はマッドゴッドのシェオゴラスに属するからである。そのようなときアズラは我々の警告を理解している。

アズラの祈りは非常に個人的なものである。私は3人のデイドラの王子の女性司祭をしてきたが、アズラは礼拝者の性質と彼女への崇拝の裏にある真実を重視する。私が16歳のダークエルフで侍女であったとき、計画する王女ことモラグ・バルを礼拝する、祖母の集まりに参加した。恐喝、ゆすりそして賄賂は闇の魔法であると同時にモラグ・バルの魔女の武器でもある。モラグ・バルの祈りは、暴風雨を除いて星霜の月20日におこなわれる。この儀式がおこなわれないことはめったにないが、モラグ・バルはしばしば他の日に人間の装いで自分の崇拝者たちの前に姿を現す。ファイアウォッチの後継ぎに毒を盛ろうとして祖母が亡くなったとき、私は自分の信仰をもう一度問いただした。

兄弟はボエシアの宗教団のウィザードだった。彼の話から、闇の兵士は信用ならないモラグ・バルよりも私の精神に近かった。ボエシアはデイドラの民の誰よりも兵士らしい王女である。数年間陰で策略した後、直に差し迫った結果を招いた女王は行動を起こして良い気分になった。その上、私はボエシアがダークエルフのデイドラの1人であるのが気に入った。黄昏の月2日、篭手に名前をつけた日に我々の宗教団は彼女を召喚するだろう。血まみれの戦いは彼女に敬意を表しておこなわれ、9人の信者の命が他の信者の手で奪われるまで衝突は続くだろう。ボエシアは彼女の信者に対してほとんど気を使わず、彼女の関心は我々の血だけだった。誤って練習中に兄弟を倒してしまったとき、彼女は確かに笑った。私の恐怖が彼女を大喜びさせたのだと思う。

その後すぐに団体を離れた。ボエシアは私にひどく冷たかった。こころに深みのある支配者が欲しかった。人生の次の18年間は、私は誰も崇拝しなかった。その代わり、本を読んだり研究をした。古くて世俗の研究書中に、不可思議なノクターナルの夜の女王、ノクターナル・ノクターナルの名前を見つけた。その本が指示したように、炉火の3日、聖なる日に彼女に呼びかけた。ついに、長いこと求めていた自分の女王を見つけたのだ。彼女の

不可思議な痛みのもとである入り組んだ哲学を必死で理解しようとした。話し方や私に求めた言動でさえも、彼女に関することはすべて闇に包まれていた。ノクターナルをまったく理解できなかった単純な事実を理解するのに数年かかった。ボエシアへの残忍な行為やモラグ・バルへの裏切りと同じように、彼女の神秘は彼女にとって不可欠だった。ノクターナルを理解することは彼女を否定し、その部分を闇で覆う幕をめくることだ。私が彼女を愛したのと同じくらい、彼女の敵を倒す無益さに気がついた。代わりに妹のアズラのことを考えるようになった。

アズラは仲間を大切にしているよう思える私がかつて崇拝した唯一のデイドラの王女だ。モラグ・バルは私の精神、ボエシアは私の腕、そしてノクターナルはおそらく私の好奇心を欲しがった。アズラはそのすべてを望み、とりわけ愛を欲しがる。アズラにとって我々の愛が崇拝に絡むことは重要だ。そしてその愛はまた内側に向かうはずだ。我々が彼女を愛し自身を憎むと、彼女は我々の苦しみを感じる。私が今後他の女王に仕えることはないだろう。

アズラの祈り

FormId	skyrim.esm:01B245
Owning plugin	skyrim.esm
Local FormId	01B245
Editor ID	Book4RareInvocationofAzura
Inventory image	(none)
Menu art	HighPolyBasicBook03
Value (gold)	20
Type	Book or tome
Weight	1
Can be taken	Yes
Teaches	(none)
Inventory description	(none)
Keywords	VendorItemBook
Locations	208
Leveled lists	11
Scripts	0

© Bethesda Softworks LLC and the authors of the mods in the load order.
Exported and generated with SkyrimSourceExporter.